

児童質問調査から

教科に対する学習意欲に関する調査結果（児童質問調査より）

（％）

小学校 国語		R5 名古屋		R5 全国		R6 名古屋		R6 全国	
Q 好きですか	当てはまる	19.6	54.2	23.8	61.5	19.1	52.0	24.1	62.0
	どちらかといえば	34.6		37.7		32.9		37.9	
Q 大切だと思いますか	当てはまる	66.8	93.7	69.1	94.2	62.9	92.9	67.5	94.5
	どちらかといえば	26.9		25.1		30.0		27.0	
Q よく分かりますか	当てはまる	33.9	81.9	40.4	85.7	32.7	80.2	39.2	86.3
	どちらかといえば	48.0		45.3		47.5		47.1	
Q 役に立つと思いますか	当てはまる	60.7	91.8	64.4	92.8	56.8	91.6	61.8	93.2
	どちらかといえば	31.1		28.4		34.8		31.4	

今年度の名古屋市の国語の学習に対する児童の意識調査の結果について、各設問における肯定的な回答の割合を比較すると、国語の学習が「大切だと思う」「役に立つと思う」と回答した児童が9割を超えている。それに対して、「好きだ」と回答した児童は52％であり、全国平均（62％）に比べて低い。特に「当てはまる」と回答した児童は2割弱であり、多くの児童は、国語を学習することの楽しさや魅力を十分見いだせていない状況にある。国語が「よく分かる」児童の割合は約8割であることを踏まえ、授業の内容が「分かる」ことに加えて、「もっと話してみたい!」「いろいろな作品を読みたい!」というような主体的に学習に取り組む態度の育成を重視し、児童の学習活動の質を高めたい。

良好な点

* 話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。



本設問のように、話し方を変える前と変えた後とを比べてその違いを説明できるようになるとよいでしょう。

* 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

なんとなく教科書やノートに線を引くのではなく、なぜ大事だと思ったのか説明できるようになるとよいでしょう。



課題点

* 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

設問（[2]二）の名古屋市の正答率は53.3％（全国56.6％）、無解答率6.4％（全国4.9％）であった。誤答の中でも、記述の条件「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている」ができていない解答（解答類型4）が、34.0％であった。これらの児童は、解答部分だけに着目して、条件で示されていた高山さんが文章を書く目的を理解できていなかった、もしくは、事実を自分の意見として書いたつもりだったなどが考えられる。事実と意見とを区別しながら自分の考えを書くなど、目的や意図に応じた言語活動の設定の工夫が求められる。

➡ 授業改善例①へ

* 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。

設問（[3]三）の名古屋市の正答率は64.5％（全国72.6％）、無解答率17.8％（全国12.6％）であった。誤答の中でも、記述の条件である物語を読んで「心に残ったところ」は書いているが、「心に残った理由」が書いていない解答（解答類型4 6.8％）、「心に残ったところ」が書いていない解答（解答類型6 6.6％）が多かった。こうした解答状況の児童は、授業中の発問・指示に対してどのように答えてよいかわからない状態である可能性が高い。何をどのように考えて伝えればよいか、本設問の条件のように発問・指示を具体的にするなど工夫したい。

➡ 授業改善例②へ

授業改善例①

課題について（調査結果の概要）

この問題を2チェック→ (2) 二

学習課題

次の【高山さんの取材メモ】をもとに、「室内遊び」のよさをまとめましょう。

（条件）

- 「室内遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。

【高山さんの取材メモ】

「室内遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
 - ルールをくふうする
- 百人一首 札の漢字にふりがなをふる

下級生に聞いたこと

- 1年生 みんな楽しそうでした
- 3年生 友達がふえて楽しかった

出題の趣旨

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題である。

指導事項

〔第5・6学年〕 B「書くこと」(1)ウ

授業改善のポイント

事実と感想、意見とを区別して書くために、自分の考えを整理する。

具体的な「たてわり遊び」の事例と、それらの事例に対する自分の考えとを区別して書くことができるよう、確認することが大切である。本設問で条件として示されている文言の内容（「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている。）を理解できていない児童には、「たてわり遊び」のよさ、とそれについて考えたことを整理させてから活動に取り組ませたい。

指導例

改善場面

- 「～のよさ」について考えたことを書くことや事実を取り上げて書くことに課題がある児童への支援



C：室内遊びをした1年生は「みんな楽しそうでした」、3年生は「友達がふえて楽しかった」と言っていました。

T：メモから1・3年生の言葉（事実）をそのままとりあげていますが、「室内遊び」のよさについての考えが抜けていますね。



C：自分の考えはどのように書けばいいですか？

T：「例えば、「室内遊び」のよいところは、学年に関係なく楽しめるとことです」のように、1・3年生の言葉を別の言葉に言い換えて、自分の考えを加えてみましょう。



C：「室内遊び」のよいところは、ルールを工夫してみんなが楽しくなれるところです。

授業改善例②

課題について（調査結果の概要）

この問題をチェック→ (③ 三)

学習課題

自分の好きな本を読んで、心に残ったところとその理由を友達に紹介しよう。

出題の趣旨

人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題である。

指導事項

[第5・6学年] C「読むこと」(1)エ

授業改善のポイント

ポイント① 物語を読んで、心に残ったところと、心に残った理由を交流する。

「心に残ったところ」と、「心に残った理由」との区別がない児童には、友達がどのように「心に残ったところ」と、「心に残った理由」とを表現しているか、物語のどこに注目して、どんなふうに考えたか、交流する活動の中で児童自身に気づかせ、考えを整理させたい。

ポイント② 物語を読むときにどのようなところに着目し読むことで自分の読みが深まったか、振り返らせる。

「文章の内容と自分の体験とを結びつける (C(1)オ (1・2年))」、「登場人物の行動や気持ち (C(1)イ (3・4年))」、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付け (C(1)エ (3・4年))」、「登場人物の相互関係や心情 (C(1)エ (5・6年))」、「登場人物の相互関係や心情 C(1)ア (5・6年))」、「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする (C(1)エ (5・6年))」など、既習事項を振り返りながら、物語を読むときには、どのようなところに着目しながら読むとよいか知識を整理させたい。

指導例

改善場面

- 物語の魅力を見つけられず、「心に残ったところ」と「心に残った理由」とを混同している児童への支援

(支援①)



C 1：お話を読んでもおもしろくない……。

T：なるほど。お話のどんなところに着目して読んだか、まずは確認してみましょう。



C 1：悪いことしたら僕だったらすぐあやまるよ。ごんは兵十にさっさと話せばよかったのって思いました。

T：自分の経験と結びつけて読んだんですね。友達の感想を読んで、友達はどのような点に着目して読んでいるか、確かめて整理してみましょう。また、友達の着目した読み方を使って、改めて物語を読みなおして、最初は見つけられなかった物語の魅力を新たに発見してみましょう。



(支援②)



C 2：私の好きな本は、『よかったね ネットくん』という絵本です。いいことがあったと思ったら、急に悪いことが起きて大変!と思ったら、またまたいいことが起きるからです。

T：おもしろそうな絵本ですね。よいことと悪いことが連続するという「心に残ったところ」を話してくれましたね。そこがどうして「心に残った」のか説明できますか。



C 2：おもしろいので心に残りました。

T：どのように心に残ったか、もう少し説明を加えてみましょう。



C 2：次に何が起きるかドキドキしながらおもしろく読めるからです。

T：より詳しく説明できましたね。



児童質問調査から

教科に対する学習意欲に関する調査結果（児童質問調査より）

(%)

小学校 算数		R5 名古屋		R5 全国		R6 名古屋		R6 全国	
Q 好きですか	当てはまる	35.0	61.0	34.8	61.4	33.7	59.9	34.0	61.0
	どちらかといえば	26.0		26.6		26.2		27.0	
Q 大切だと思いますか	当てはまる	76.9	94.8	75.3	94.2	74.4	94.0	74.3	94.6
	どちらかといえば	17.9		18.9		19.6		20.3	
Q よく分かりますか	当てはまる	45.7	81.7	45.2	81.2	44.8	81.5	44.9	82.1
	どちらかといえば	36.0		36.0		36.7		37.2	
Q 役に立つと思いますか	当てはまる	73.2	93.8	73.0	93.3	70.4	93.6	71.7	94.1
	どちらかといえば	20.6		20.3		23.2		22.4	

今年度の名古屋市の算数の学習に対する児童の意識調査の結果について、各設問における肯定的な回答の割合を比較すると、算数の学習が「大切だと思う」「役に立つと思う」と回答した児童がともに9割を超えている。それに対して、「好きだ」と回答した児童は6割に満たない。特に「好きですか」について「当てはまる」と回答した児童は約3割であり、多くの児童は、算数の学習に対して前向きな気持ちを抱けないまま学習していると考えられる。算数が「よく分かる」児童の割合は約8割であるが、その中で「よく分かりますか」について「当てはまる」と回答した児童は5割にも満たない。個に応じた指導をきめ細かく行うことによって、児童は算数が好きになり、理解が確かになっていくことだろう。

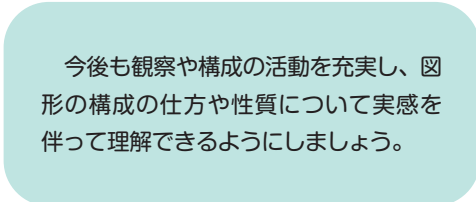
良好な点

* 数量の関係を□を用いた式に表すことができる。



今後も問題場面を数直線や線分図などに表し、未知の数量を明確にして数量の関係を把握させましょう。

* 直方体の見取図について理解し、かくことができる。



今後も観察や構成の活動を充実し、図形の構成の仕方や性質について実感を伴って理解できるようにしましょう。

課題点

* 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

本設問〔④(3)〕の名古屋市の正答率は35.7%（31.0%）、無解答率は3.8%（全国2.4%）であった。道のりとかかった時間を基に速さを求めて比較する方法だけでなく、道のりが等しいことに着目し、速さを求めずに、かかった時間が短いほうが速いと判断することもできる。いずれにしても、「道のり」と「かかった時間」、「速さ」の関係についての理解を基に、日常の事象の解決に活用する指導をより充実させていくことが大切である。

➡ 授業改善例①へ

* 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。

本設問〔③(3)〕の名古屋市の正答率は37.4%（全国36.5%）、無解答率は13.0%（全国9.8%）である。立方体には一辺の長さは示されていないが、そこにぴったりと入る球の直径の長さが示されていることから、直方体の一辺の長さは球の直径の長さであることを捉えられることが必要である。昨年度、テープに描かれた、高さが示されていない2つの三角形の面積を比較する問題が出題されたが、正答率が最も低かった。平面、立体に関わらず図形の求積の学習では、必要な長さを児童自身に測りとりせたり、他に提示されている要素から捉えさせたりするなどの活動が求められる。

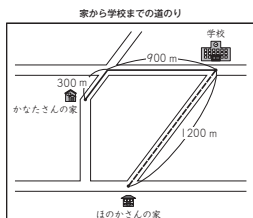
➡ 授業改善例②へ

授業改善例①

課題について（調査結果の概要）

この問題をチェック⇒ (4)(3)

学習課題



かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで図のように歩いて行きました。かなたさんは20分間、ほのかさんは24分かかりました。どちらが歩く速さは速いですか。そのわけも説明しましょう。

出題の趣旨

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかをみる問題である。

指導事項

〔第5学年〕C「変化と関係」(2) ア(ア)、イ(ア)

授業改善のポイント

道のりとかかった時間から、速さの比較ができることは認めつつ、「道のり」が等しい場合、どちらが速いかを求めるためには「かかった時間が」短い方が速いことに気づかせる。

「道のり」が等しい場合、速さを求めなくても比較することに気づかせることが大切である。そのために、

- ① 問題に示されている条件を整理し、共通な条件に気づかせる
- ② 問題の条件を視覚的に捉えさせるために、平行な2本の数直線を示し、それぞれに「道のり」と「かかった時間」を記入させるなどの工夫が大切である。

指導例

改善場面

- それぞれの速さを、1分あたりの歩いた道のりで求めて比較した児童への支援

T：どちらが速いか、もっと簡単にわかる方法はないでしょうか。



C：どうすればいいだろう。

T：問題に示されていることを確認して、整理をしてみましょう。

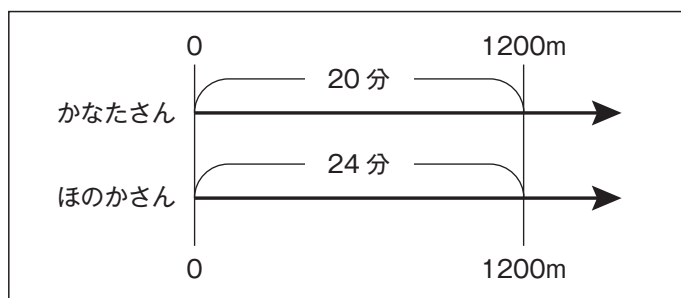


C：かなたさんは、1200 mを20分で歩いていて、ほのかさんは、1200 mを24分で歩いているから……。

T：このことを数直線に表してみましょう。



C：(数直線に必要な数値を記入する)



T：どんなことがわかりますか？



C：どちらも道のりが1200mで等しいです。

T：等しい道のりを歩くときに、同時にスタートしたら、どちらが先にゴールしますか？



C：かかった時間が短い方が速くゴールします。

T：では、かなたさんとほのかさんの、どちらが速いといえますか。



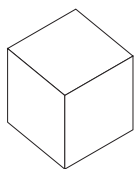
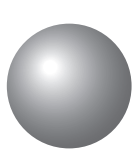
C：かなたさんの方が速いです。速さを求めなくても道のりが等しいときには、かかった時間だけを比較すればいいんですね。

授業改善例②

課題について（調査結果の概要）

この問題をチェック⇒ (3)(3)

学習課題



直径 22cmの球があります。この球がぴったり入る立方体の体積を求める式を書きましょう。

出題の趣旨

球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題である。

指導事項

[第3学年] B「図形」(1) ア(ウ)、イ(ア)

[第5学年] B「図形」(4) ア(イ)、イ(イ)

授業改善のポイント

必要な長さが直接提示されていない場合、それと等しいものを問題場面の中から見つけられるようにする。

立体図形に限らず平面図形の体積や面積を計算で求める学習では、求積のために必要な辺の長さなどの数値が図に示されていることが多い。このため児童は、示されている数値をかけ合わせれば体積や面積を求めることができると認識している場合がある。しかし、本設問のように示されていない場面は、問題場面の中から推測する活動を取り入れていくことが大切である。この時、問題場面から見つけた数値が正しい理由を明確にすることも必要である。

指導例

改善場面

- 立方体の体積を求める公式について理解が不十分な児童への支援

T：困っていることは何ですか。



C：立方体の1辺の長さがわかりません。

T：問題の中に、示されている長さはありますか。



C：球の直径の長さが示されています。

T：球の直径とはどのようなものですか？



C：球を半分に切った時の切り口の円の中心を通る直線です。

T：球を半分にする切り方を変えると、球の直径の長さは変わりますか。

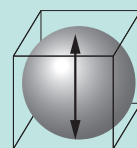


C：球の切り方を変えても、直径の長さは変わりません。

T：そうすると、球が立方体にぴったり入ることから、どのようなことがわかりますか。



C：図のように球の直径の長さと立方体の向かい合う2つの面の間の長さが等しいことがわかります。



T：球の直径と立方体の辺の長さとの関係はどうなっていますか。



C：球の直径と立方体の1辺の長さは等しいです。これをもとに立方体の体積を求めればいいんですね。

令和6年度 全国学力・学習状況調査報告書（小学校）

発 行 令和6年11月

発行者 名古屋市教育委員会

監 修 国語 埼玉大学准教授
本橋幸康

算数 一般財団法人 教育調査研究所研究部長
大橋 明